

The region agriculture leader of Wakayama Prefecture

和歌山県  
和歌山県農業士会連絡協議会

# 和歌山の 農業士

2022  
3  
March

地域農業をリードする熱き農業者達

第18号





# はじめに

本誌『和歌山の農業士』は、和歌山県の地域農業を牽引するリーダーとして知事に認定された『農業士』が、互いの活動を共有するとともに、関係者の皆様や一般の方々へも、広く積極的に情報発信していくため作成しています。

農業士が長年の農業経験で培った経営観や、これからの農業にかける熱い想いを紹介する内容に加え、各地域で展開される農業改良普及活動や、農業士会としての取り組みなどを内容に盛り込んでいます。

農業に関係する皆様方には、是非、ご一読頂き、地域農業の実情や農業経営の現状等について、ご理解を深めて頂ければ幸いです。

## <巻頭言>

コロナ禍だからこそ、人との出会いやつながりを大切にしたい

(和歌山県農業士会連絡協議会 副会長 玉置 貴啓) …………… 1

「地域農業を担う人材の育成・確保」に向けて

(和歌山県農林水産部農業生産局経営支援課 課長 段子 和己) …………… 2

## <私の農業>

### 農業士達がこれまで培った自身の経営や活動を紹介

やりがいと喜びのある農業を続けたい (和歌山市 地域農業士 嶋田 佳代) …………… 3

ズバリ、一期一会! (紀の川市 指導農業士 野尻 久江) …………… 5

柿を中心に水稻・野菜の複合経営

～柿の品質向上と省力化の取り組み、新品目へのチャレンジ～

(橋本市 地域農業士 中山 英明) …………… 7

「田村みかん」ブランドを守るために ～派米研修での経験を活かして～

(湯浅町 地域農業士 井上 芳信) …………… 9

スマート農業の実践 ～トマトの植物工場を目指して～

(御坊市 青年農業士 大藪 和晃) …………… 11

梅で地域を盛り上げていきたい! (田辺市 指導農業士 蕨野 準) …………… 13

少量多品目で地産地消の野菜栽培 ～地域農業の後継者育成が楽しみです～

(那智勝浦町 指導農業士 塩崎 一男) …………… 15

## <農業に懸ける想い>

### 農業への熱い思いや取り組みを紹介

養蜂をもっと身近に (海南市 和海地方4Hクラブ連絡協議会 西村 洸介) …… 17

夢は楽しく仕事を (紀の川市 地域農業士 猿棒 博信) …………… 18

品種選定と省力化から高品質生産 (九度山町 地域農業士 狭間 祥元) …………… 19

好きだった農業を始める (有田川町 青年農業士 山下 広太郎) …………… 20

梅を主体に野菜、花きとの複合経営を実践!

(みなべ町 青年農業士 上本 将伯) …………… 21

さらに高品質なものを作りたい! (田辺市 青年農業士 寄本 裕貴) …………… 22



# 巻頭言

## コロナ禍だからこそ、人との出会いやつながりを大切にしたい

和歌山県農業士会連絡協議会

副会長 玉置 貴啓



令和元年度から、副会長に就任しました田辺市芳養町の玉置です。岡田会長のもと、皆様のご協力を得て、和歌山県の農業の発展に向けた農業士会運営に努めて参りますので、よろしく願いいたします。

現在、世界中で新型コロナウイルス感染症が蔓延し、農業士会活動もままならず、悔しい思いでいっぱいです。早く新型コロナウイルス感染症が終息に向かうことを願うばかりです。

さて、田辺・西牟婁地域は、うめや柑橘類の栽培が盛んな地域です。我が家もうめを中心に中晩柑「せとか」のハウス栽培や水稲栽培を行っています。

うめは主にJAへ加工用の完熟うめを出荷し、漬けうめの一次加工も行っています。就農して16年になりますが、これまで新植や計画的な改植により規模拡大を図り、園地の作業効率を考え、園内道を整備したり、防除作業の省力化を図るため、スピードスプレーヤの導入も行いました。

また、うめ以外の品目として、中晩柑に力を入れています。以前、愛媛県でハウス栽培の「せとか」を試食した時、そのおいしさに感銘を受け、我が家でもこのような高品質な果実生産をしたいと思い、もともとあった露地栽培の「せとか」に6年前からビニールハウスを設置し、昨年度、県の補助事業を受け、すべての「せとか」をハウス栽培にしました。

私の住む田辺市芳養町田川地区は農家の多くが

70代であり、私のような若い農家がほとんどなく、高齢化が進み、耕作放棄地が増えています。

私は父親から経営移譲され8年になりますが、父親の代から地域の環境保全と活性化に取り組んでいます。ライスセンターを設置し、地区内で作業に手が回らなくなった方を支援するため、約30年前から水稲の請負作業を行っています。

最近では受託作業が増加し、田辺市内だけでなく、みなべ町内にまで広がっています。作業内容も育苗から収穫まで全般的な作業を引き受けることも多くなっています。

今後も耕作放棄地を減らし、農地を守り、地域農業の活性化につながる活動に取り組んでいきたいと考えています。

青年農業士になって5年になりますが、農業士になって良かったことは、普段出会うことのない様々な人と出会い、世代を越えて人とのつながりが出来たことです。県内にもたくさんの知り合いが出来ました。今後も農業士会を通じて人との出会いやつながりの場を大切にしていきたいと思います。

最後に農業士会のますますの発展と会員の皆様をはじめ関係者の皆様のご健勝を祈念申し上げます。コロナ禍ではありますが、出来ることから農業士会活動に取り組んでいきたいと思っています。

# 巻頭言

## 「地域農業を担う人材の確保・育成」に向けて

和歌山県農林水産部農業生産局経営支援課

課長 段子 和己



農業士の皆様には、地域農業のリーダーとしてご活躍されておりますことに敬意を表しますとともに、本県の農業振興に対しご協力、ご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

さて、農業者の減少や高齢化が大きな課題と叫ばれて久しいですが、和歌山県農業の担い手の現状はどうなっているのでしょうか。

先ほど公表された2020（R2）年農林業センサスの調査結果を見ますと、主業経営体数（65歳未満の農業専従者がいる）は、5,176経営体で、2015（H27）年の6,156経営体と比べると5年間で約1,000経営体が減少しています。農業従事者の階層別年齢においても、65歳以上の方が64%（2015年は59%）を占め、さらに高齢化が加速している状況となっています。

一方、令和2年度新規就農者調査結果（令和3年5月調査）では、新規就農者数は160名で、うち新規学卒者が10名、Uターン就農者が53名、新規参入者が49名、農業法人等での雇用就農者が48名となり、昨年度に比べて、新規参入や農業法人等への就農が増加しています。

要因としては、有効求人倍率の低下や新型コロナウイルスを契機とした働き方や価値観の変化により地方に生活拠点を移す動き（地方回帰）が生まれ、20代・30代の若者を中心に農業への関心が高まったことや農業法人等が雇用の受け皿となっていることが考えられ、さらにこの流れは今後も続くのではないかと予想されます。

県では、これまで、就農相談会の開催や農林大学校や就農支援センターでの技術研修の実施、さらには農業次世代人材投資事業（旧青年就農給付金事業）

の活用などにより、年間180名の新規就農者の確保・育成を目標に取り組んできたところですが、令和2年度から、新たに「わかやま版新規就農者産地受入体制整備事業」を立ち上げ、市町村・JA・生産者等で組織された産地受入協議会の取り組みを支援しています。

具体的には、各地域の振興品目を中心とした「産地提案型就農モデルプラン」を作成し、産地が必要とする人材の情報提供を新規就農支援サイトや就農相談会で発信するとともに、研修生の受入れや定着に向けて地域が一体となって支援していく内容となっています。

非農家や県外出身者にとって、新規参入の障壁となる農業技術の習得や農地の確保だけでなく、住居の手配や子育て、慣習・コミュニティへの参加など生活面での課題に対しても、それぞれが役割と責任をもって幅広くサポートしていくことが必要となってきます。

すでに、6産地受入協議会が10名の研修生を受け入れ、うち2名が農業経営を開始するなど成果は着実に上がってきており、県としても、この取り組みを県下全域に広げ、新規就農者を増やしていきたいと考えています。

本県の基幹産業である農業にとって、担い手の確保と育成は待ったなしの状況であり、農業士の皆様には、さらなる産地受入協議会の設立に向けたご協力とご支援をお願いするとともに、これまで同様、就農希望者の研修受入れや優良農地の紹介、卓越した技術や豊富な経験に基づいた助言など、意欲ある農業者の育成にご尽力賜りますよう併せてお願いいたします。

## やりがいと喜びのある農業を続けたい

和歌山市 地域農業士

嶋田佳代



### 1. はじめに

私は結婚後、子どもが幼稚園に行くようになり、時間ができたことをきっかけに就農しました。それまで農業をしていませんでしたが、実家が農業をしていたこともあり、抵抗なく農業を始めることができました。就農時の栽培面積は、ぶどう 30a、みかん 250a、かき 25a、たけのこ 20a で、夫と夫の両親とともに農業をしていました。現在は、栽培面積を減らし、主に1人で作業しています。

### 2. 農業経営の特徴

現在もぶどう、みかん、かき、たけのこを栽培しています。

ぶどうは夫が結婚前に栽培を始め、徐々に面積を増やしていきました。家の周りの平地でぶどうを栽培しており、家の近くで仕事ができることから、ぶどうは面積を減らさず栽培しています。ですが労働力の問題から、みかんやかき、たけのこは栽培面積を減らし、自分でできる範囲で経営しています。

ぶどうの栽培品種は、「巨峰」、「シャインマスカット」のほか、「ピオーネ」、「藤稔」、「ゴルビー」、「クイーンニーナ」です。収穫時期が異なる品種を栽培することで、収穫、出荷時期を分散させています。色々な品種を組み合わせ販売することも楽しいです。以前は、お盆の進物用に箱入れしたのも販売していましたが、注文の処理に追われ、作業

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
ぶどう	45a
みかん	40a
かき	20a
たけのこ	10a
○労働力	
本人、臨時雇用（2人）	

に手が回らなくなったため、現在は進物用はお盆以降に販売するようにし、通常は、畑に隣接する場所に設けている直売所で販売しています。販売方針を変えたことで、自分で納得した販売ができるようになりました。お客さんから、「今年も待っていた。」、「（私が栽培したぶどうを食べたら）他のを食べられない。」といった声もあり、励みになっています。



ぶどうの剪定



ぶどうは、花穂整形や摘粒など房を作るための作業が多い上、作業の仕方によって房の形が変わってきます。自分が思うような形の房にするのは難しいものです。かきも摘蕾から始まり収穫まで作業が多く大変です。しかし、そうした苦勞をしながら作り上げていくことに、やりがいと喜びを感じています。

みかんやかき、たけのこは代々続けてきたものです。みかんやかきは個選で市場に出荷しています。たけのこは瓶詰めにして、ぶどうの直売所で販売したり、昔からのお客さんに直接販売したりしています。

現在はしていませんが、和歌山県が運営しているネットショップモール「ふるさと和歌山わいわい市場」（現在：和歌山食の総合ポータルサイト「おいしく食べて和歌山モール」）で、開設当初からインターネットを活用した販売にも取り組んできました。その時のお客さんが今も買ってくれています。このように新しいものを取り入れつつ、取捨選択しながら農業を続けてきました。



ぶどう畑と直売所

### 3. 今後の経営方針

これからは、栽培規模の拡大は難しいですが、今の規模を維持しながら農業を続けていきたいと考え

ています。ぶどうも色々な品種を作りながら、考え、工夫を凝らし、よりよいぶどうを作りたいと思います。なかなか自分のものにならないですが、そこがまたいいところだと思っています。かきについては、和歌山県オリジナル品種の「紀州てまり」を導入しています。これまでもそうしてきましたが、新しいものを取り入れながら前向きに自分がやりたい農業、喜びを感じられる農業を続けていきたいと考えています。

### 4. おわりに

私の場合、後継者がいません。もちろん、後継者がいて農業を続けていくことができるのは良いことです。しかし、後継者にとって、農業が合う場合もあれば、そうでない場合もあります。一方的に農業技術を伝えても、上手くないのではないかと考えています。後継者自身が、実際に見て、興味を持ち、自分で考えて工夫しながら、経験を積んでいくことが大切ではないかと思えます。後継者がそういった姿勢で農業に打ち込めるようにしていくことが、伝えていく側に必要ではないかと感じています。



「紀州てまり」の幼木と筆者

# 私の農業

## ズバリ、一期一会！

紀の川市 指導農業士

野尻久江



### 1. はじめに

私は結婚を機に広島から和歌山にやって来ました。夫は会社勤めでしたが、両親がハウスなす、夏秋きゅうり、水稻、桃、芍薬などを栽培していました。

当時私は家事、育児の合間に、両親が営んでいた農業の荷造りや、ホース引きなどを手伝っていました。

ちょうどその頃、那賀農業改良普及所（今の那賀振興局農林水産振興部農業水産振興課）から「若妻講座」のお誘いがあり、参加することで色々な方々との出会い、そこから多くのことを学ぶことができました。

中でも熊谷普及員さんには、味噌や蒟蒻などの加工技術などを教えてもらい、慣れない土地で暮らす生活環境の悩みを相談し、時には嫁姑の愚痴も聞いてもらいました。

城本普及員さんには、栽培技術はもちろんですが、「兼業だからと小さくならなくていい」と励まされてきました。

大東普及員さんには、日常的に「日本型食生活」を継続する大切さと、団体の自立の意義を教えてくださいました。

また土橋普及員さんには、東京での「全国女性農業者会議」に出席する機会に同行してもらい、その時に会った青森の女性農業者とは、今でも農産物を交換しあっています。

さらに、「農村婦人育成事業全国大会」で農林水産

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
ハウスなす	10a
夏秋きゅうり	10a
水稻	35a
桃	5a
芍薬	5a
○労働力	
家族	2人

省の斎藤さん（当時経営局女性・就農課長）とも出会い「これからも、前向きに頑張ってくださいね」と励まされまされ、その後の活動の支えとなりました。

私は、このような出会いから、より一層農業に関心を持つようになりました。

### 2. 農業経営の特徴

現在は会社を定年退職した夫と二人で、両親のあとを継ぎ、同じ作型で施設野菜を中心に栽培しています。

できた農産物のほとんどは、産直販売も含め全てJA紀の里に出荷しています。

出荷した農産物を陳列している間、開店を待っていてくださるお客様とも話す機会があり、刺激を受けてとても励みになりました。

また、店頭で新しい農産物や珍しい農産物を見つ

けると嬉しくなり、つい私もチャレンジしてみようという気持ちになりました。

### 3. 今後の経営方針

消費者ニーズを、農業者だけでなく主婦としての目線でも捉え、おいしく新鮮な農産物を提供することを目標に、品目を絞り込み、これからも無理のない範囲で長く農業を続けていきたいと考えています。

### 4. おわりに

結婚してこの地に住み、農業に携わって36年、四季折々の自然の恵みを肌で感じている反面、ここ最近では異常気象が続いています。ハウスの倒壊などの災害に会うことが増え、長雨や夏場の高温による生育環境が大きく変わり、従来通りの栽培方法が難しく、きめ細やかな対応がカギと考えています。

特に昨年、今年は、新型コロナウイルス感染症の影響で収益が厳しくなってきたことから、芍薬の栽培をやめ、自家用野菜として品目はまだ考えていませんが、新しい作物栽培をチャレンジしたいと考えています。

さて、私は今年3月で指導農業士の定年を迎えます。元々地域に知り合いの少ない私が「若妻講座」を経て「農業士会」に加えてもらい、いろいろな経験をさせてもらいました。

今回の寄稿にあたり、「(和歌山の農業士)の前身である)機関紙「あぜみち」も再度読み直しました。

懐かしい顔ぶれに思わず目頭が熱くなり、あらためて定年はちょっと寂しいけど、これまで多くの人に支えられてきたことに感謝しています。

顔と顔を直接合わせることで、年齢・環境を超えて分かり合えることは沢山ありました。中でも、平成27年度に開催した「和歌山県女性農業士連絡協議会」研修会に「自分らしく農業で輝く」と題してご講演いただきました斎藤さんとはおよそ20年ぶ

りの再会でありましたが、限られた時間での有意義な研修会となりました。

いままでは、農業を維持するのに精一杯でしたが、最近働く女性たちの社会的地位の向上、職場環境の改善と整備を目指して活動する女性のNGO団体である「B P W和歌山クラブ」の方々と知り合う機会があったことから、これからは、この新たな出会いをきっかけにこれまで積み重ねてきた出会いの点と点を線に、線と線を面に、異業種交流を通じて農業の今と未来をどんどん発信していけたらと考えています。



那賀地方の女性農業士の皆さんと



直売所での様子



接ぎ木作業中

# 私の農業

## かきを中心に水稻・野菜の複合経営 ～かきの品質向上と省力化の取り組み、 新品目へのチャレンジ～

橋本市 地域農業士

中山 英明



### 1. はじめに

私は高校卒業まで大阪で過ごしましたが、祖母の実家の跡を継ぐことが決まっており、和歌山の農業を学びたかったので、県農業大学校（現、県農林大学校）へ入学しました。

県農業大学校を卒業後、社会人経験をしてから就農しようと考えていたので、化成肥料メーカー営業職とJA営農指導員を10年勤めました。

就農前に得た知識は現在も役立っていますが、実際に農業をやってみると思い通りにいかなくて、悪戦苦闘しています。

### 2. 農業経営の方針と現状

現在は、かき栽培を中心に、水稻とえだまめの栽培を行っています。これまでのかき栽培における取り組みを述べると、就農したころはかきの価格低迷期ということもあり、面積の拡大や増収ばかりを追いかけていました。しかし、栽培管理がおろそかになり、品質の低下が目立つようになってきたので面積を減らし、品質の向上と省力化に取り組むように方針を変更しました。

当園地は急傾斜地ということもあり、管理作業が大変です。そこでまず一番苦になる防除作業を改善しようと、25年前からスプリンクラー防除を導入しました。かきでのスプリンクラー防除は一般的ではなく、県やJAの力を借り、現在の防除体制を作ることができました。

草刈りも大変な作業のため、同時期にイタリアンライグラス、ヘアリーベッチ、ナギナタガヤを用いた草生栽培に取り組みました。しかし、獣害の増加に伴い、一時は草刈りが不用なほど畑を荒らされま

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
かき 極早生	8a
刀根早生	60a
平核無柿	60a
富有柿	65a
えだまめ	10a
水稻	50a
○労働力	
家族	3人
季節雇用	2人

したが、獣害防止フェンスの設置により再び青々と茂るようになり、現在は収穫前の1度の草刈りで管理できるようになっています。

園内道はイノシシの被害で崩されるなどの被害を受けているため、毎年修繕しながらクローラ運搬車が通れる道を整備しています。

かきの販売を行いながら、大きくて見事なかき、赤秀4L最高品質と言うのは作り手の自己満足ではないのか、消費者が求めるかきはどのようなものかと疑問があり、出荷先でのかきの扱いや消費者の購入傾向を調べました。そのうえで自分なりに消費者への売り方を考え、かきの大きさは種なしかき類、甘かき類ともに2L、L、中心になるよう栽培しています。

次に、水稻は農地を維持する程度の感覚で栽培していましたが、米粉パンや米粉麺を作る加工業者の方と知り合い、取引を始めたことで栽培に意欲が出ています。

えだまめ栽培は地域の若手と共に、かき栽培の労

力負担に影響の少ない作物に取り組もうと、JA、市場と売れるモノを相談して始めました。他にも、かぼちゃ、ほうれんそう、とうもろこしなどにも取り組みましたが、今も続いているのがえだまめです。『美味黒早生』という品種を導入し、枝付きで出荷しています。野菜の素人が始めたので失敗も多く、未だに試行錯誤していますが、今ではJA紀北かわかみ管内全域で栽培されるようになり、徐々に生産者が増えています。

### 3. 今後の経営方針

現在の栽培品目を基本として、更なる作業の効率化と新たな品種導入に取り組んでいきたいと考えて

います。また、水稻だけでなく、果樹やほかの品目においても、加工業者との取引や商品開発などに取り組んでいきたいと思っています。

### 4. おわりに

就農した当時は自分が最年少でそのまま若手気分でしたが、私よりかなり年下の有望な農家も増えてきました。今も自分のことで精一杯なことばかりですが、いままで諸先輩にお世話になったことも多かったので、今後は若い人に刺激をもらいながら、相談に乗れるような立場になっていきたいと思っています。



かきの剪定



スプリンクラー防除



かき園地と整備した園内道



獣害防止フェンス



えだまめ



えだまめ栽培

# 私の農業

## 「田村みかん」ブランドを守るために ～派米研修での経験を活かして～

湯浅町 地域農業士

井上 芳 信



### 1. はじめに

私が就農したのは平成9年で、県の農業大学校（現、県農林大学校）を卒業後にアメリカコロラド州で2年間派米研修を受けたのちに就農しました。

温州みかんを中心とした果樹専作経営を行っており、防除用スプリンクラー等の整備を進めることにより現在610aまで園地を拡大しています。

全国の消費者に美味しくかつ安全・安心の果実提供のため日々努力しています。

### 2. 農業経営の特徴

私の住む湯浅町田村地区は、紀伊水道に面し三方に広がる段々畑が特徴です。秩父古生層と呼ばれる岩盤質の山を切り開いた石垣園地は、とても水はけが良く、太陽が燦々と降り注ぎ、また多くのミネラルを含む潮風がより一層みかんを美味しくさせます。これらの条件で育ったみかんは糖度と酸度のバランスが良く、独特のコクが特徴の「田村みかん」ブランドとして認知されています。

私が所属する田村出荷組合は、産地ブランドを守るためにさまざまな取り組みを行っています。その一つとして農家間で味のばらつきを減らすため、収穫時期には組合員の全園地を回り、糖度のみならず酸度も計測し、併せて着色具合も考慮しながら収穫しています。これは後生にも伝えていきたいと考えています。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	510a
極早生	80a
早生	200a
普通	230a
晩柑	90a
ビワ	10a
○労働力	
家族	4人
雇用	2人

品質面では、一部の園地でマルチを敷設し、点滴かん水を利用することで高品質果実の生産に取り組んでいます。また、当園は低農薬、化学肥料を使用しない有機のみの肥料を用いており、ワックスも使用しておりませんので安心してお召し上がりいただけます。



三方に広がる園地



マルチの敷設



田村みかんジュース

### 3. 今後の経営方針

みかんの大部分は、田村出荷組合を通じて市場出荷しています。その他、ふるさと納税返礼品、地域直売所、インターネット販売にも取り組んでいます。更なる販路拡大を行いたいと考え、県のプレミアム和歌山に申請を行い、みかんの極早生品種から極晩生品種の5品種と加工品の田村みかんジュースで認定を受けることができました。また、私の作るみかんをたくさんの消費者に認知していただくため、農園のリーフレットを作成しPRするとともに、今後はホームページの作成にもチャレンジしていきたいです。

近い将来、長男が後継ぎとしてみかん作りを継いでくれる予定です。若者の視野・視点にも耳を傾けていければより良いみかん作りに繋がると考えています。今から楽しみにしています。

### 4. おわりに

私は農業大学校在学中に同大学校の恩師に海外農業研修事業の話をお聞きいただき、卒業後すぐに就農するよりも色々な事を経験する機会だと思い2年間の派米研修を決意しました。

派米研修は何ものには代え難い濃いものでした。楽しくもあり、辛いこともあった日々の体験が今の農業経営にも繋がっていると感じています。

世界はコロナ禍ですが、長男が私と同じ農林大学校を卒業し、現在アメリカワシントン州で派米研修中です。私の頃では考えられませんが、今ではInstagramなどのSNSを使ってすぐにメッセージのやり取りが可能で、充実した生活を過ごしている様子を見ることができていへんうれしく思っています。その長男の名前は、私がアメリカでお世話になったマツダファームのボスの名前です。

仲間達やメキシコの友人と語りながら呑んだたくさんの酒は忘れられませんね。

# 私の農業

## スマート農業の実践 ～ トマトの植物工場を目指して～

御坊市 青年農業士

大藪 和 晃



### 1. はじめに

私は、和歌山工業高等専門学校専攻科を卒業後、地元JAでの勤務を経て、30歳を機に退職し就農しました。当初は親の生産していた宿根カスミソウと一緒に栽培していましたが、ミニトマトの生産に魅力を感じ、新たに鉄骨温室を建て生産を開始しました。温室を建てるにあたり何度も県外視察に行き、施設の設計から生産技術まで独学で身につけました。その後、友人や仲間も増え、教わったり意見交換したりしながら技術研鑽に努め、現在では41aの鉄骨温室でミニトマトを栽培しています。

### 2. 農業経営の内容

当農園の特徴は、鉄骨温室を自宅に隣接する農地に集約しているところです。そのため、温室の管理がしやすく、深夜でも気になることがあればすぐに見に行くことができます。台風時などには異常に気付きやすいので非常に安心できます。

また、施設は、コンピューター制御にて機械化・自動化を推し進めた植物工場に近い施設となっています。温室の軒高は4.5mで、ハイワイヤー式の養液栽培を行っています。培地が隔離されているので土壌病害が広がったりする心配もありません。万一土壌病害が発生しても対象の培地を徹底消毒、もしくは交換すれば早期に復旧できます。

通路に作業車等を誘導するレーンシステムを導入

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
ミニトマト	41a
(アイコ)	25a
(キャロル7)	16a
○労働力	
家族労力	2人
雇用労力	5人



温室全景



ハイワイヤー式養液栽培



しているため、高所作業車でも安全で効率的に作業ができます。農薬や葉面散布は防除用ロボットがレールに沿って自動で行ってくれるため、短時間で終わり、農薬等を被る心配もありません。

従業員に対しては、各々を一つ、多くて二つの作業に特化させることで短期間に練度を高められるよう工夫しています。さらに、農場も選果場もコンクリート舗装しているので従業員が土の上を歩くことも土に触れることもありません。

### 3. 今後の経営方針

今後の目標としては、温室を増築（41a → 57a）し、生産力を強化することです。

また、生産性の向上を図りつつ、化学農薬に頼らない防除体系の確立を目指しています。加えて、廃液回収や残渣処分場なども検討し、環境負荷の少ない農場にしたいと考えています。将来的には収穫用ロボットの導入なども検討し、従業員にも優しい農場を目指していきます。

現在、当農場では全ての機器・栽培に関する情報が私一人に集約されています。危険分散を図るためにも従業員の中で栽培システムを任せられる者を1人、植物生理に詳しい者を1人、育てていきたいと考えています。

### 4. おわりに

当農園の経営理念は、クリーンで安全な農産物を消費者の皆様へ届け、食卓を笑顔にすることです。

また、私も含め農園で働いている人たちとその家族が「今日もいい1日だった」と思える日常の実現です。

そして、将来的には、家族経営農業から産業として発展し、地域社会に貢献できる農業企業を目指したいと考えています。そのために県主催の農業MBA塾や研修会にも積極的に参加し、知識の習得

や友人の輪を広げていきたいと思っています。



防除用ロボット



温室内の環境をモニタリング



ミニトマトの重量式選果機

## うめで地域を盛り上げていきたい！

田辺市 指導農業士

藤野 準



### 1. はじめに

私は、昭和 52 年に県農業大学校（現、農林大学校）を卒業し、その年の 4 月に就農しました。

就農した当初、我が家はほとんどが柑橘園でした。昭和 54 年から平成 22 年まで、私の住む田辺市上芳養地域内の 3 か所で農地開発事業が行われパイロット園が出来たので、入植してうめを植えました。

その頃、みかんの価格は低迷していたので、みかん畑の一部や水田にもうめを植えました。

### 2. 農業経営の方針と状況

うめは、昭和 54 年にパイロット園に入植後、5 年後に青採り、10 年後の平成元年に一次加工に取り組み始めました。約 20 年前にうめ干し用のパイプハウスを建て、今では、収穫量全体の約 8 割はうめ干しに一次加工して漬けうめ業者に出荷し、残りの約 2 割は加工用のうめとして J A へ出荷していません。

一部の園地ですが、園内道を整備して、作業がしやすくなるよう園地改造しました。また薬剤散布やかん水作業の省力化を図るため、計画的にスプリンクラーの設置を行い、約 8 割の園地に設置していません。

効率よく働きやすい作業環境を目指し、平成 12 年に大型倉庫を建設し、フォークリフトを導入して軽作業化に取り組んでいます。選果作業では、選果

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
うめ	330a
南高梅	330a
水稻	25a
○労働力	
家族	3 人
臨時雇用（収穫時）	3～6 人

機に昇降機やローラーコンベアを取り付け、作業が楽になるようにしました。また、完熟果を収穫するため、高温で熟度が進むのを防ぎ、ケシキスイ類の幼虫の防除対策のため、うめを水に漬けるための容量 8,000 リットルの水槽も整備しています。

高品質安定生産を行うため、老木や収量の少ない樹は、計画的に自家育苗した苗木に植え替えています。苗木づくりは、自分の園地で比較的収量の多い優良母樹の穂木をとり、毎年接ぎ木して育苗を行い、改植時に利用しています。

雇用については、家族経営を中心に、臨時雇用をうまく組み合わせることにより、労働力の確保に努めています。9 年ほど前から地元の福祉事業所からも臨時雇用を受け入れ、農福連携にも取り組んでいます。



自家育苗による改植園



うめ干し用ハウス



大型倉庫



接ぎ木講習会（4Hクラブ員対象）

### 3. 今後の経営方針

うめでの規模拡大を図るため、新植や計画的な改植によって、収量を確保し、漬けうめの一次加工を行い、経営の安定化を図りたいと思います。

3年前に息子が就農し、作業全般をいっしょに行っています。役割分担を明確にするため、昨年、家族経営協定も締結しました。近いうちに経営移譲していけたらと思います。

また、園地の優良系統樹の割合を増やすため、今後も接ぎ木による自家育苗を行い、接ぎ木の技術を地域の若手農業者や女性農業者に継承していきたいと考えています。

### 4. おわりに

就農して45年、私も65歳になり、指導農業士の定年を迎える年となりました。農業士の仲間に入れていただき、たくさんの人と出会い、知り合いになって、農業やそれ以外の事もいろいろ教わり、ありがとうございました。

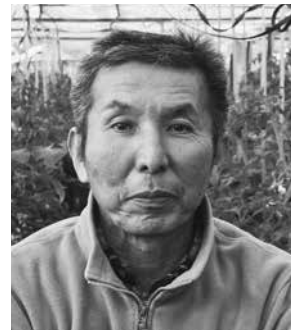
4Hクラブ員や農業士になって良かったことは、地域外の農家の方とつながりを持てるようになったことです。今でも当時知り合いになった農家と交流を続けています。

また、これまで農業を続けてこられたのは、いっしょに頑張ってくれた妻の存在が大変大きいと感じています。これからもお互い協力し、助け合い、息子のサポートをしながら農業を続けていけたらと思います。

# 私の農業

## 少量多品目で地産地消の野菜栽培 ～ 地域農業の後継者育成が楽しみです ～

那智勝浦町 指導農業士  
塩崎 一男



### 1. はじめに

私は、昭和 55 年 3 月に県農業大学校を卒業し、4 月に就農しました。以降、父とともに農業経営を営み、新たな品目としてたかなや水稻苗、野菜苗の委託栽培を経営に取り入れました。

就農後は、4 H クラブ活動を通じ仲間もでき、青年農業士、地域農業士を経て、平成 18 年に指導農業士に認定されました。

地域の活動として、現在、後継者の育成を念頭に、野菜栽培技術講習会（アグリビギナー研修）の講師をしています。

また、地域特産物のたかなの関係で、食育活動として地元小学校の収穫体験を支援し、収穫後に各家庭で地域伝統のめはりずしを作ってもらい食べてもらったことがありました。令和 3 年 6 月に、「たかなの 10a あたり 8t 採り栽培技術」で匠の技伝道師に認定していただきました。



大変光栄です！ 頑張ります！

### 2. 農業経営の特徴

労働力は、基本的に自分一人で、ときどき高齢の

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
・水稻	27a
・きゅうり	10a
・なす	8a
・トマト	5a
・たかな	3a
・その他（野菜苗：なす）	3a
○労働力	
本人	1名

両親に手伝ってもらっています。温暖な土地柄をいかし、自分一人という労働力に併せて、少量多品目で、きゅうり、トマトを中心とした施設野菜、なす等の露地野菜の複合経営をしています。



太平洋を望む温暖な傾斜農地

思い入れのある品目は、父の代に力を入れたトマト、私が新たに温暖な気候をいかして導入したたかな、なす等の接木苗です。

特にトマトについては、過去に黄化葉巻病による

被害が発生し、3年間くらいほぼ全滅になりました。他品目へ切り替えようか悩みましたが、抵抗性品種の普及により栽培を続けることができました。トマトは他品目に比べ栽培管理に手間を必要としますが、その手間がかかるところが私のお気に入りです。他品目より高価な肥料を施用し、トマト栽培を楽しんでいます。

たかなは、地域で昔から栽培されていましたが、近くの漬物業者から頼まれて本格的に栽培に取り組みました。葉かきによる収穫を行うため、土作りや肥料の施用量に気を使っています。

当地域は台風の多い土地柄で、過去にハウス1棟が倒壊しましたが、ハウスを防風ネットで覆い台風による被害の軽減に努めています。



地域の大切な品目：たかな

### 3. 今後の経営方針

現在の年齢を考えると経営規模の拡大は難しいので、引き続いて地産地消の少量多品目栽培に取り組みます。余裕をみながら新たな品目も検討し、現状の栽培面積を減らさないように品質のよいものを作りたいと思います。一年を通して、特に冬季の野菜栽培は地域内で減少し貴重な存在となってしまいましたが、消費者の地元産を求めるニーズもあり、そのニーズに答えていけるよう頑張っていきたいです。

以前は、父から引き継いだポンカンを栽培していましたが、鹿による被害が大きかったこともあり、現在は耕作放棄の状態になっています。ポンカンも地域の大切な品目なので、今後鹿対策を行ったうえで苗木を植えたいと思っています。



アグリビギナー研修会



匠の技伝承体験・座談会

私の息子は農業とは別の道をすすみ、現在我が家の後継者はいませんが、地域農業を維持・発展させるために、研修会の講師やたかな栽培の技術伝承等で地域農業の後継者育成に努めていきます。

### 4. おわりに

農業は、近年の気候変動で農作物の栽培が難しくなったり、新型コロナウイルス感染症の影響で地域内消費の動向が読めなかったり、生産者の高齢化で耕作放棄地が増加し野生鳥獣による被害が発生したりと、あまり喜ばしくない要因がありますが、個人個人が頑張っても限界があるので、会員が協力しながらやっていけばよいアイデアも浮かぶと思います。

たかな栽培で匠の技術伝道師に認定されこともありますが、一般の生産者に自分の栽培技術を伝える場をつくることを大切にし、地域農業の発展に貢献していきたいと考えています。

後継者育成の活動は農業の活性化につながると思っていますので、みんなで頑張りましょう！

# 農業に懸ける想い

## 養蜂をもっと身近に

海南市 和海地方4Hクラブ連絡協議会

西村 洸介



### 1. はじめに

私は、専門学校を卒業後、県外で建築設計の仕事をしていましたが、退職し地元で就職活動をしていた27歳の時に、祖父が家業である養蜂業をやめることになりました。そこで、養蜂について何も分かりませんでした。これを機に祖父から養蜂技術を学び始めました。4～5年目までは技術の習得に必死で、みつばちへの恐怖心もありましたが、慣れてくると徐々に自ら生産する面白さにやりがいを感じるようになり、現在は4代目として養蜂を始めて10年目になります。

### 2. 農業への想い・取り組み

経営については、県内6カ所にて5月～8月上旬まで採蜜を行っており、今年から新たに北海道の9カ所が加わりました。採蜜だけでなく、みつばちの販売や花粉交配用みつばちの貸出を行うことで、経営の安定化を図っています。採取したはちみつは、和歌山のみかん産地を活かした「みかん蜜」及び「百花蜜」として販売しています。

自ら経営を始めて実感したことが、「一般の方が養蜂についてあまり知らない」ということです。そこで、養蜂の内容や国産はちみつについて、もっと知っていただくため、SNSやホームページにて、日々情報を発信する他、地元小学生を対象に食育活動も行っています。今後も様々な方法で、養蜂について発信する機会を増やしていこうと思っています。

養蜂は、果樹や野菜に比べて、国内の生産者はま

#### 農業経営の概況

○規模	
採蜜群	150群
○労働力	
家族	2人
臨時雇用（採蜜期）	2人

だまだ少なく、私自身、農業という分野での影響力が小さいように感じています。もっと多くの方に養蜂を認知していただき、養蜂家の立ち位置を確立できるように、これからも取り組んでいきたいです。



みつばちを飼育する巣箱



販売しているはちみつ

# 農業に懸ける想い

## 夢は楽しく仕事を

紀の川市 地域農業士

猿 棒 博 信



### 1. はじめに

私の家は、代々続く農家で、水稻からはっさくに、そしてはっさくからかき、ももなど落葉果樹に切り替わり現在に至っています。社会人生活を5年経験した後就農し、今年で24年になります。

### 2. 農業への想い・取り組み

就農した当時は、父、母、妻の家族4人とパートさん1人で約2.5ha程の面積を管理していました。父は約10年前に、母は昨年2月に他界し、現在は妻と2人で生活してします。振り返ると、就農した当初は忙しいながらも、生活に時間の余裕があったように思えます。それが、家族も減り、面積が増えた分、忙しさに追われる毎日になってしまいました。それと同時に、就農当時に感じていた農業の持つ楽しさも感じられなくなっていきました。

人生の大半は仕事をしている時間ですので、仕事は少しでも楽しく感じたいものです。今まで所得向上を第一に考えていましたが、この年齢になって間違っているのではないかと感じています。所得向上はもちろん大事です。それとともに仕事以外の生活の時間も大切にしたいと思っています。

今は、園内道の設置を少しずつ進め、樹間もなるべく広くするように心がけています。大型機械の購入やスプリンクラーの設置などにも出費は惜しまないようにしています。仕事が楽になれば、少しでも楽しくなると思っています。幸い私の周りには、若い農家が多く、彼らに教えてもらったり、助けても

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
かき	140a
もも	70a
中晩柑	150a
みかん	20a
キウイフルーツ	10a
○労働力	
家族	2人
臨時雇用	2-6人

らうことがたくさんあります。周りの人と楽しく仕事ができ、私生活も充実することが、豊かな人生を送る方法ではないかと感じています。



枝の手入れ作業

# 農業に懸ける思い

## 品種選定と省力化から高品質生産

九度山町 地域農業士

狭間 祥元



### 1. はじめに

私は、大学卒業後、県果樹園芸試験場 紀北分場（現、かき・もも研究所）で研修し、30年以上果樹を栽培しています。当時は、柑橘類から他品目への転換時期で、はっさくを刀根早生に植え替えました。

また、ももやいちじく等も栽培しました。

今では、かきとぶどうを栽培し、かきは園内道の整備と乗用型の農機具の導入、ブドウは剪定技術で省力化を図っています。

### 2. 農業への思い・取り組み

九度山町はかきもぶどうも品質勝負の地区です。消費者が求める品種、品質、価格を考え、生産と販売に取り組んでいます。一定以上のレベルで安定的に高品質なものを作るため、常に省力化と効率化を考えています。

現在は、園地が10カ所以上に分散しているので、今後は集約したいと考えています。

かきは、標高の異なる園地と複数の品種を組み合わせ、労力の分散を図るために作業時期をスケジュール管理しています。省力化を図るため、乗用モア、バックホー、スピードスプレーヤ（SS）等を導入し、今では園内道整備により約8割の園地をSSで散布しています。ぶどうは、短梢剪定を行い、ジベレリン処理等作業の効率化を図っています。

販売の面では、慈尊院に近い立地条件を生かし、直売や宅配に取り組み、今では毎年注文頂くお客さんがいます。

これからも、高品質果実の連年安定生産を続けていきます。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積		
かき	中谷早生	50a
	紀北川上早生	50a
	刀根早生	100a
	平核無柿	50a
	富有柿	50a
	紀州てまり	5a
ぶどう	（ピオーネ、シャインマスカット）	10a
○労働力		
家族		4人
季節雇用		3人



乗用モア・バックホー



スピードスプレーヤ(SS)



「シャインマスカット」の収穫



# 農業に懸ける想い

## 好きだった農業を始める

有田川町 青年農業士

山下 広太郎



### 1. はじめに

私は、一昨年9月まで14年間サラリーマンをしていましたが、元々農業が好きだったため、仕事をやめて母が行ってきた農業を継ぎました。現在、有田川町で、みかん、さんしょう及びキウイフルーツ等の果樹の他、水稻も栽培しています。

### 2. 農業への想い・取組

就農して1年経ったところですが、技術的にはまだまだ未熟で手探りの状態で、近所の先輩方や農協青年部の仲間から教えていただきながら作業を進めています。

将来の安定経営には、作業性の良い園地の確保、優良品種への切り替えが必要と感じており、改植や園地整備等を始めています。

この1年で約1haの園地を借りて経営規模を拡大しました。担い手がなく、農地を借りてほしい人はけっこうあって農協や知り合い等から紹介されます。

作業性の良い優良園地を増やして、省力化と経営規模拡大を図り、耕作放棄地が多くなならないよう、貢献できればと考えています。

また、昨年マルチを巻き上げ式にして30a程敷設しました。雨が多かったのですがマルチにより、納得のいく品質に仕上がりと、その効果を感じているところです。

今後も改植やマルチ等の補助を活用しながら、高品質果実の生産を進めていきたいと考えています。

農業は自分のペースで仕事ができるし、やったら

#### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
温州みかん	200a
さんしょう	10a
キウイフルーツ	6a
水稻	70a
○労働力	
家族	3人

やっただけ成果が上がるので、やりがいがあります。思った以上に忙しく感じていますが、家族と接する時間も長くとれますし、休みたい時に休みがとれるのも良いところです。

経営規模を拡大しながら、若い仲間とともに、地域農業を支えていきたいと思っています。



車が入れるよう造成し直した園地

# 農業に懸ける思い

## うめを主体に野菜・花きとの複合経営を実践！

みなべ町 青年農業士

上本将伯



### 1. はじめに

私は県農業大学校を卒業後、すぐに就農し、13年目になります。

今年度から、日高地方農業士会の会計をさせてもらい、色々な農業士さんと交流して勉強させていただいています。

農業士会活動等で学んだことを経営に活かせるよう日々取り組んでいます。

### 2. 農業への思い・取り組み

みなべ町は日本一のうめ産地であり、我が家ではうめ（南高）を主体とした複合経営を営んでいます。

うめは、200a 栽培していますが、老木になると生産性が低下することから、計画的に改植を行うことにより生産の安定化に取り組んでいます。

豆類（きぬさやえんどう、うすいえんどう）は、ハウスで10a、露地で5a栽培しています。最近は気象災害が多いため、ハウスは補助事業を活用して耐風性等を高めています。

ミニトマトは、6年前から4a栽培しています。他の品目に比べて栽培が難しいため、ヒートポンプや環境モニタリング装置を導入して高品質安定生産に取り組んでいます。

きんぎょそうは、3年前から6a栽培しています。比較的栽培が容易で労力分散にもなることから、これからも続けていく予定です。

今後も、先人たちが築いてくれた梅産業を維持発展させるとともに、リスク分散のため野菜や花きとの複合経営を実践していきたいと思います。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
うめ	200a
豆類（施設、露地）	15a
ミニトマト（施設）	4a
きんぎょそう（施設）	6a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	1人



ミニトマトの管理



岩代小学校での花育活動

# 農業に懸ける想い

## さらに高品質なものを作りたい！

田辺市 青年農業士

寄本裕貴



### 1. はじめに

私は高校卒業後、田辺市にある卸売市場で4年数か月働き、その後、大型自動車免許を取得して運送会社に就職しました。北は宮城県、西は鹿児島、東は千葉県と全国各地をたび回っていました。

平成21年、結婚を機に就農することになりました。

### 2. 農業経営への想い・取り組み

我が家の経営は父、母と私の3人の家族経営でうめや柑橘、水稻、野菜を栽培していました。

就農して10年目の令和元年に父から経営移譲され、それを機に妻も本格的に農業をしてくれることになりました。今では収穫やうめのネット敷き、柑橘のタイバックマルチの設置や農薬散布等、私と一っしょに作業をしてくれています。

柑橘類はJA出荷とJAの直売所へ出荷しています。

うめや柑橘類の栽培管理全般をスムーズにかつ効率的に出来るように老木園の改植を積極的に行ったり、選別作業時の選果機も新たに導入しました。柑橘の選別作業も妻と2人で行っています。

昨年、極早生温州を28a新植しました。新植や改植、機械類の設備投資には時間も資金もかかりますが、自分の栽培技術に磨きをかけ、品質の良いものができた時の喜びは何ものにもかえがたいものがあります。

今後は、さらなる栽培技術の向上に努め、将来的には、ドローンやリモコン式草刈り機の導入等、スマート農業にも取り組んでいきたいと思っています。

### 農業経営の概況

○作付品目と面積	
うめ	150a
柑橘類	150a
(極早生温州、早生温州等)	
水稻	48a
○労働力	
家族	4人
臨時雇用	3人

また、高単価で販売できる品質の良いものをたくさん作りたと思います。



導入した選果機



極早生温州みかん園

# 県農林大学校学生です。

## ～農林大学校1年生の自己紹介&近況報告～

### 農学部 園芸学科



私は、和歌山市の出身で、高校はきのくに青雲高校卒業です。私が農業に興味を持ったのは、一般のサラリーマンのようにずっとデスクワークをするよりも自然の中で体を動かして仕事がしたいと思ったからです。また、農林大学校の入試を受けるにあたり小論文の勉強をしていたところ、日本の食料自給率は40%以下と半分も自国ではまかなえていない状態であり、ほとんどの食料を他国からの輸入に頼っている状況を知りました。だから私は和歌山県の農業はもちろん、日本の農業にも貢献したいと考え農林大に進学しました。私の祖父も小規模ですが稲作をしているので、企業でない限り自分で経営しないといけないという大変さや他の仕事にない、天候に左右される点等の特異性がある事は知っていましたが、それらは逆に自分には自営ができる、休みを土日以外でとれるというメリットでもあったと思います。



私は新宮市出身の非農家です。非農家であったため、これまで農業に関する物事は行ったことがありませんでしたが、中学生の頃に地産地消についての話があり、その話を聞いたときから農業について興味を持つようになり、高校で農林大学校の存在を知り、入学を目指してきました。

農林大では実習時間が多く、より農業について学びやすい環境であると思っているため、その環境を活かして農業技術を身に付けていきます。

2年間という短い期間の中でしっかりと技術や知識を得て、これから先に活かしていこうと思います。



僕は有田市出身の福田満樹です。

僕がこの農林大学校に入った理由の1つ目は、まず家が農家だったので農業を学んでみてもいいなと思ったからです。2つ目は、僕が高校3年生になる少し前からコロナウイルスが発生していたからです。コロナウイルスが発生している中で就職に不安があったからです。そのため、就職よりも進学の方がいいと思いこの学校を選択しました。3つ目は、僕が職業に就いたときその職業と一緒に農業を兼業でやっていこうと考えていたからです。農業のことは父に聞きながらやっていこうと思っていましたが、父が農業を学びに行ってくると言ったからです。僕も単純に農業を学んでみたかったこともあり、すぐに農林大に行くことを決めました。将来のことはあまり決めていませんが、農業に関わる仕事をしたいと思います。実習と色々な資格を取得して、卒業したいと思います。

農林大学校1年の前田光輝です。出身はかつらぎ町です。

農林大に入ったのは祖父母の農業の手伝いをするための知識と技術を取得するためです。

将来の夢は、まだ具体的には決まっていません。農林大で頑張っていきたいことは、取ることができる資格はできるだけ取れるようにすることと、農業に関する知識や技術をできる限り吸収して覚えること、テストでできるだけ赤点をとらないように勉強をがんばることです。



.....



私は岩出市出身の松本駿介です。家は非農家ですが、卒業後は営農指導員になることを考えています。

紀北農芸高校では、作物に対する特性や栽培方法などの農業の基礎知識を学びました。また、農業の知識だけではなく作物を栽培する楽しさや収穫した時の達成感をあじわうことができました。そのため、農業に対する知識をもっと深く、幅広く学びたいと思い紀北農芸高校を卒業した後、農林大学校へ入学しました。

高校では基礎的ではあるが果樹の知識を学ぶことができたので、農林大では野菜のことと経営や土壌肥料などの高校では学べなかった農業関係の知識をしっかり身につけたいと思います。

.....

私は紀の川市出身の南京市といえます。

高校は紀北農芸高等学校に通っていましたが、そこでは花を専攻していて、花壇苗について勉強していました。農林大学校は花きでは切り花を中心に栽培しているので、切り花についてや草花について深く勉強がしたいと思い入学しました。

農林大では座学の勉強を頑張り、多くの資格取得を目指したいと思います。

将来は高校と農林大での5年間学んだ事を活かすことのできる仕事に就きたいと考えています。



.....



私は田辺市出身です。家は非農家ですが、高校は南部高校に通っていましたが、高校では野菜の栽培、加工など色々なことを学ぶことができました。

初めは、農業に興味がなかったけど、学んでいくうちに興味を持つようになり、農林大学校に入学しました。

農林大では、高校の時にあまり学べなかった果樹に興味を持ち、果樹について勉強していきたいと思っています。特に今はももについて学んでいきたいです。この2年間で、農業のことについて勉強し、色々な資格や技術、知識などを身につけて頑張りたいです。

私は岩出市出身です。高校は、紀北農芸高等学校に通っていました。  
私が農業を学ぼうと思ったきっかけは、将来の夢をしっかりと持っていなかった中学生の頃、野菜の栽培に少し興味があったことです。折角興味があるならその方面に進もうと思い、農芸高校に進学しました。そこで、農作業の奥深さ、楽しさを知り、もっと専門的に学びたいと感じたため、農林大学校へ進学しました。

人生経験も未熟で農業についての知識も浅いですが、だからこそ気づくことができるかもしれない農業の課題に気づけるよう農林大生としての時間を大切にしていきたいです。



吉村友佑

.....

## 農学部 アグリビジネス学科



談儀舞波

私は和歌山市出身です。

高校時代は普通科で農業の勉強はしていませんでしたが、祖父母がもも農家で幼い頃から手伝っていたため、ももや農業について学びたいと思い、農林大学校に入学しました。

農林大では果樹コースを専攻しており、学科はアグリビジネス学科なので、ももの栽培や出荷調整、加工やブランド化などについて勉強し、祖父母のもも農家を継ぎたいです。

卒業後、自分でつくったももや、そのももで作った加工品を販売できるように、2年間で知識や技術を身に付けたいと思います。

.....

私の名前は、寺井智大です。御坊市出身です。

私は、将来農業をする為に、農林大学校に入学しました。農家になる為に必要な知識と経験を積む為です。

将来は、実家で農業をしようと考えています。なぜなら、地元が好きだからです。親が農業をしている事もあり、昔から地元で農業をしたいと考えていました。

農林大では、沢山の資格を取得し、身に付けた知識と経験を生かして、将来農業で生計を立て、地元の農業を盛り上げられるよう頑張りたいです。



寺井智大

# 試験研究レポート

REPORT

## 「きゅうき」の特性と高品質安定生産技術

果樹試験場 栽培部 主任研究員 中谷 章

### 1. はじめに

中生ウンシュウミカン「きゅうき」の栽培面積は増加しつつありますが、生育の初期から着花性がよく樹勢が低下しやすいため、花芽の抑制や樹勢の維持が課題となっています。また、栽培面積が増加するにつれて品質向上技術の確立も求められています。

そこで、現地栽培園に植栽されている「きゅうき」の特性を調査するとともに、樹勢維持および品質向上のための技術開発に取り組みました。

### 2. 「きゅうき」の特性（現地試験）

有田川町内の複数園地において2015年春に2年生苗を定植された「きゅうき」および「宮川早生」の樹容積と果実品質を、有田振興局農業水産振興課と共同で調査しました。「きゅうき」の樹容積は園地ごとのバラツキが大きく、同一園地での比較では「宮川早生」より樹容積が小さい傾向でした（表1）。果実品質は「宮川早生」と同等でした（データ略）。

表1 現地栽培園の樹容積の推移

園地名	品種	園地条件	樹容積(m <sup>3</sup> )		
			2016年3月 (3年生)	2017年8月 (4年生)	2019年9月 (6年生)
A	きゅうき	傾斜地	0.16 ± 0.04	1.14 ± 0.63	1.61 ± 0.67
B			0.26 ± 0.10	4.11 ± 1.08	5.86 ± 1.50
C			0.21 ± 0.07	1.19 ± 0.66	1.74 ± 0.61
D			0.12 ± 0.02	0.96 ± 0.66	2.48 ± 2.47
E		平坦地	0.22 ± 0.07	1.93 ± 0.91	3.29 ± 1.96
B	宮川早生	傾斜地	-	4.74 ± 1.16	6.76 ± 2.08
E		平坦地	0.25 ± 0.06	2.71 ± 0.75	4.79 ± 1.75

※各園地とも2015年春に2年生苗を定植  
樹容積は7かけ法で算出  
Z:標準偏差(n=10)

### 3. 安定生産技術の確立（場内試験）

主枝先端50cmの部分全摘蕾（5月上旬）および部分全摘果（6月上旬）が新梢発生に及ぼす影響を調査したところ、両処理区とも総新梢長が増加しました（図1）。また収穫後のジベレリン処理による着花抑制効果を検討したところ、ジベレリン2.5ppmにマシン油乳剤（97%）60倍加用、ジベレリン2.5ppmに機能性展着剤1,000倍加用のいずれも着花抑制効果が得られ、総新梢長が増加しました（表2）。

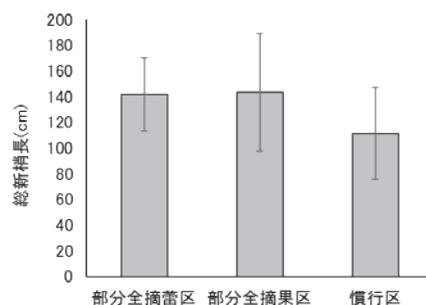


図1 部分全摘蕾および部分全摘果処理が総新梢長に及ぼす影響（2018年）

※5年生樹を供試  
(エラーバーは標準偏差(n=5))

表2 収穫後のジベレリン(GA)処理が翌年の着花数および新梢量に及ぼす影響

処理濃度	旧葉100枚当たりの着花数			新梢量		
	直花	有葉花	合計	本数(本)	平均(cm/本)	総新梢長(cm)
GA 2.5ppm+マシン油乳剤60倍	34.4	7.1	41.5	32.9	5.8	183.8
GA 2.5ppm+展着剤1000倍	39.5	9.5	49.0	37.9	6.6	243.8
無処理区	110.5	7.0	117.5	29.1	4.8	158.5

※2019年に6年生樹を供試。2019年12月18日に処理、2020年5月に着花数、6月に新梢量を調査  
マシン油乳剤はアタックオイル、展着剤はスカッシュのみジベレリン処理用に登録あり

また、施肥方法として、年間施肥量の30%を夏肥として施用したところ、樹容積が大きくなり、収量も多くなりました(表3)。なお、果実品質は同等でした(データ略)。

表3 施肥方法が樹容積および収量に及ぼす影響

	樹容積(m <sup>3</sup> )			収量(kg/樹)		
	2018年	2019年	2020年	2018年	2019年	2020年
夏肥区	8.6 (100)	10.0 (116.3)	8.9 (103.5)	35.5	52.2	31.2
慣行区	6.5 (100)	7.3 (112.3)	6.6 (101.5)	22.5	40.5	27.8

※2014年高接ぎ樹(2016年初結実)を供試し、処理は2016年に開始  
年間施肥量は両区ともN20kg/10a、夏肥区はそのうち30%を5月下旬に施用  
収穫は各年とも12月上旬、収穫後に樹容積調査(樹容積は7がけ法で算出)  
樹容積の( )内は2018年の樹容積を100とした場合の指数

#### 4. 高品質果実生産技術の確立(現地試験)

仕上げ摘果時期を8月中旬と9月下旬に設定し、果実品質の推移を調査しました。また、透湿性シートによるマルチの効果について検討しました。仕上げ摘果時期を9月下旬とすることで糖度は上昇し、透湿性シートを敷設することでさらに糖度が上昇しました(図2)。ただし、マルチと9月下旬の仕上げ摘果を組み合わせた場合、ややクエン酸含有率が高く推移しました(データ略)。

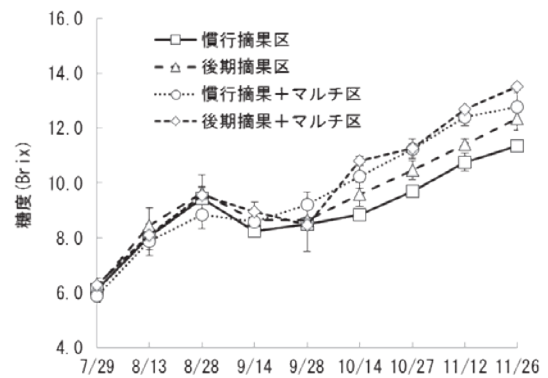


図2 摘果時期およびマルチ敷設が糖度の推移に及ぼす影響

※慣行摘果区は2020年8月18日、後期摘果区は9月25日に仕上げ摘果  
マルチは8月3日に敷設

#### 5. おわりに

現地栽培園での調査から「きゅうき」の生育は園地ごとのバラツキが大きいことが明らかとなりました。園地条件による一定の傾向は見られなかったことから、水管理等の栽培管理が影響した可能性が考えられます。摘蕾・摘果やジベレリンの散布により総新梢長が増加したこと、夏肥の施用により樹冠が拡大したことから、これらを組み合わせることで樹勢を維持することが重要だと考えられます。また、果実品質向上にはマルチの導入が有効ですが、園地条件や労力的にマルチの導入が困難な場合は、仕上げ摘果を9月下旬頃とすることで、果実品質を上げることができます。ただし、水分ストレスが強い場合、クエン酸含有率が高くなる場合があるため、必要に応じてかん水することが重要です。



# 試験研究レポート

REPORT

## 省力的で無加温栽培が可能な切り花品目について

農業試験場暖地園芸センター 園芸部 部長 花田 裕美

### 1. はじめに

和歌山県が生産量日本一のスターチス・シヌアータは、2008年の燃油高騰により夜間に加温しない無加温栽培が中心となりました。他の品目より労力がかからないうえに燃料費が不要となったことから栽培面積は増加し、2020年には72haになりました。出荷量の増加に伴い平均単価も低下したため、新しい品目への要望が強くなってきました。そこで2018年から無加温ハウス栽培が可能で省力的な品目の探索を行ってきました。今回は無加温ハウスで同一株を植えたまま何年間も収穫できる品目を選抜したので紹介します。

### 2. 試験研究の内容と結果

2016年にハイブリッドスターチス「シンジー」3品種、ハイブリッドシネンシス「キノルージュ」、「ランキユラス」3品種、2017年に17品目21品種、2019年に「エリンジウム」2品種、「アーティチョーク」1品種、「フロックス」2品種の計24品目・31品種を栽培してきました。1区10株、うね幅90cm、条間40cm、株間20cmの2条植えで、施肥管理はN15-P8-K17 2kg/10aを液肥で月1回施用しました。一次選抜は作業性が良く、茎葉の棘や剛毛で作業時に痛みが伴わないものを14品目18品種選びました。選抜した個体は植え替えをせずにそのまま栽培を継続しました。二次選抜は電照で開花促進するものを選びました。電照は2018年10月から明期延長（17:00-23:00）、2019年10月16日から暗期中断（23:00-1:00）、2020年10月6日から早朝延長（1:00-7:00）を行い、切り花の収量調査をしました。その結果、「シンジー」、「アルメリア」、「オキシペタラム」、「ユウギリソウ」、「エリンジウム」、「フロックス」（株）プラントネットワーク）の6品目を有望品目として選抜しました。「シンジー」と「アルメリア」は別の機会に紹介するため、今回は4品目について紹介します。

・「オキシペタラム」は南アフリカ原産のガガイモ科の多年草で、明期延長により10、11月の収穫本数が増加しました。しかし、5月の収穫本数は増加しましたが、4月から8月までの合計収穫本数は電照なしの方が5本多くなりました。暗期中断では、電照による開花促進効果は無く、収穫本数も同程度でした。



写真1 オキシペタラム (ブルースター)

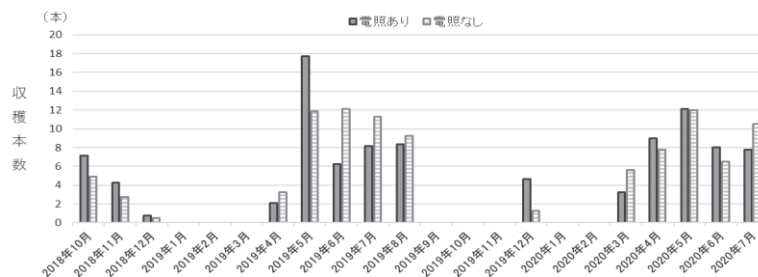


図1 オキシペタラムの電照処理と株当たり収穫本数(本/株)

電照処理 2018年10月1日-2019年4月30日(電照17:00-23:00 明期延長)  
2019年10月16日-2020年4月30日(電照23:00-1:00 暗期中断)  
定植日 : 2017年9月29日

・「ユウギリソウ」はキキョウ科の多年草で、明期延長を行うと1月から7月まで連続して収穫が可能でしたが、電照なしでは6月まで開花しませんでした。暗期中断では、2、3月は開花せずに4月から開花しました。

また、暗期中断では11月から1月も収穫できましたが、電照なしでは収穫出来ませんでした。



写真2 ユウギリソウ (白花種)

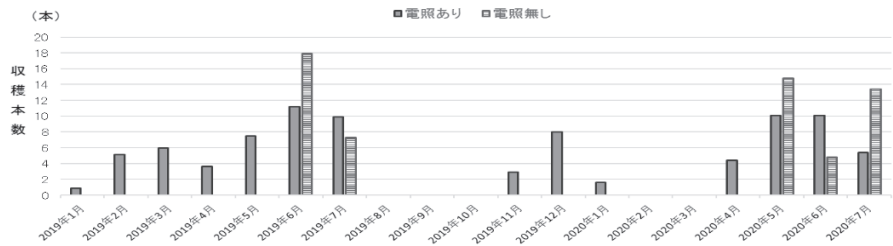


図2 ユウギリソウの電照処理と株当たり収穫本数(本/株)

電照処理 2018年10月1日-2019年4月30日 (電照17:00-23:00 明期延長)  
 2019年10月16日-2020年4月30日 (電照23:00-1:00 暗期中断)  
 定植日 2017年9月29日

・「エリンジウム」はセリ科の多年草ですが、一般的には1年草として扱われています。定植した年に暗期中断を行うと5月から開花しましたが、電照なしでは開花しませんでした。また、早朝延長では、11月、3月、4月と開花しましたが、電照なしでは2月に収穫後、5月まで開花しませんでした。このことから、「エリンジウム」は電照により開花までの期間が短縮することがわかりました。

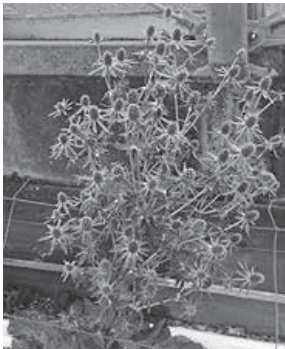


写真3 エリンジウム 'ブルーグリッター'

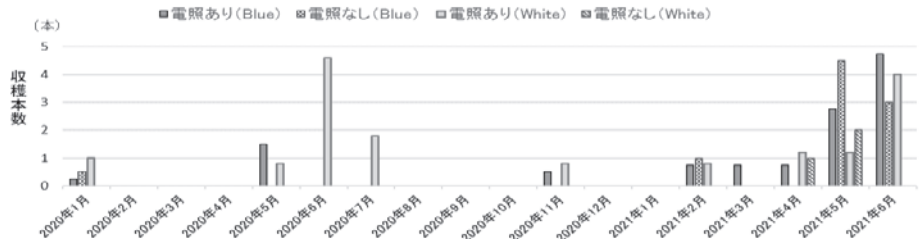


図3 エリンジウムの電照処理と株当たり収穫本数(本/株)

電照処理 2019年10月16日-2020年4月30日 (電照23:00-1:00 暗期中断)  
 2020年10月6日- (電照1:00-7:00 早朝延長)  
 定植日 2019年9月25日

・「フロックス」は、(株)プラントネットワークの契約品種です。暗期中断では5月から11月まで2ヶ月毎に収穫出来ました。電照なしでは6月から収穫できましたが、本数は電照区より少なくなりました。また、早朝延長では、3月と6月に収穫できましたが、電照なしでは収穫出来ませんでした。



写真4 フロックス 'グリーンライオン'

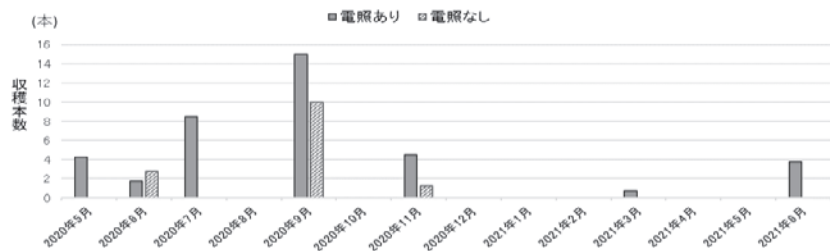


図4 フロックスの電照処理と株当たり収穫本数(本/株)

電照処理 2019年10月16日-2020年4月30日 (電照23:00-1:00)  
 2020年10月6日- (電照1:00-7:00)  
 定植日 2019年7月30日

### 3. まとめ

今回紹介した4品目は、何年間も同じ場所に植えたまま収穫可能で省力的な品目で、栽培も難しくありません。このような省力的な品目を導入することで、労力不足になりがちな農業分野で、和歌山県にとって最も重要なスターチス栽培に注力できるような栽培体系の一端として考えていただければと思います。但し、「フロックス」については特許等の経費がかかる品目なので、今後についてはJ A紀州と検討中です。

# 試験研究レポート

REPORT

## 開花前の高温がウメの花器および着果に及ぼす影響

果樹試験場うめ研究所 研究員 網木海成

### 1. はじめに

2020年産のウメは例年にない不作となり、他品種との受粉が必要な「南高」だけでなく、本来安定した着果が見込まれる自家和合性品種「NK14」でもその傾向が認められました。2019年12月から2020年2月の天候は東・西日本で記録的な暖冬となり（気象庁）、「南高」の満開日は2月3日と平年より13日程度早まりました（JA紀南調べ）。ウメでは開花が早い年で不完全花が多いことがすでに報告されており、2020年産の不作は開花前の高温による早期開花が一因と考えられました。そこでウメ樹体へのビニル被覆により開花前の高温条件を再現し、花器および収量への影響を調査したので紹介します。

### 2. 試験研究の内容・結果等

#### (1) 開花前の高温の再現試験

試験は主幹形「南高」および「NK14」5年生を用いて行いました。落葉開始直前の2020年11月27日から樹体にビニル被覆（図1）を開始した長期被覆区、2020年12月25日からビニル被覆を開始した中期被覆区、2021年2月1日からビニル被覆を開始した短期被覆区を設け、ビニル被覆を行わなかった樹体を露地区としました。試験区ごとに試験期間中の気温の推移を記録し、満開日および不完全花率、花粉発芽率を調査しました。「NK14」については収量も調査しました。



図1. ビニル被覆の外観

#### (2) 気温上昇が開花に及ぼす影響

「南高」のビニル被覆期間中の平均気温はいずれの月も露地区よりも高くなり（図2）、満開日は露地区に比べて長期および中期被覆区で17日、短期被覆区で5日早まりました（表1）。「NK14」についても同様の傾向となりました（データ省略）。

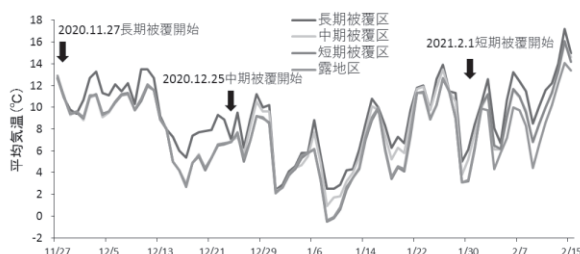


図2. 試験期間中の気温の推移

表1 平均気温と「南高」の開花日

	気温(°C)		開花	
	平均気温 <sup>z</sup>	気温差 <sup>y</sup>	満開日	開花日差
長期被覆区	8.7	1.4	1月29日	17日
中期被覆区	7.6	0.7	1月29日	17日
短期被覆区	7.3	1.5	2月10日	5日
露地区	7.5	—	2月15日	—

z:試験開始日の2020/11/27から8割開花日までの平均気温

y:各区のビニル被覆期間中の平均気温と露地区の平均気温の差

#### (3) 早期開花が花器および収量に及ぼす影響

「南高」の不完全花は被覆区で発生が多くなり（図3）、その発生率は長期および短期被覆区が露地区より高くなりました（図4）。また、花粉発芽率は早期に加温を行った区ほど低くなり（図5、6）、これらの各項

目で「NK14」もおおむね同様の傾向となりました（データ省略）。加えて、「NK14」の収量は被覆区が露地区よりも低くなりました（図7、8）。

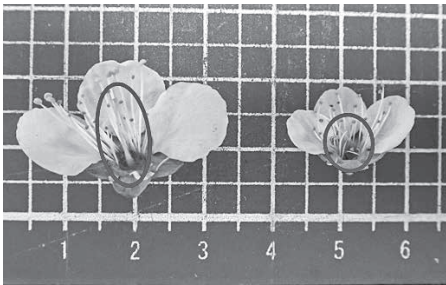


図3. 完全花および不完全花の外観  
左) 露地区の完全花、右) 被覆区の不完全花  
完全花：雌しべが雄しべより長いまたは同等  
不完全花：雌しべが雄しべより短いもしくは無い

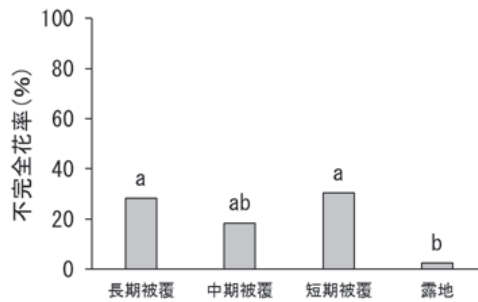


図4. ビニル被覆が「南高」不完全花率に及ぼす影響  
Tukeyの多重比較により、異なる符号に5%水準で有意差があることを示す (n=3)

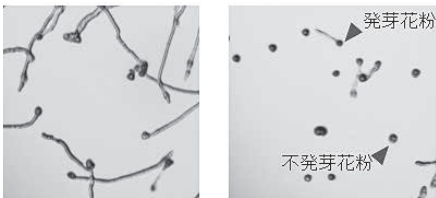


図5. 花粉発芽試験の様子  
左) 露地区の花粉粒、右) 被覆区の花粒

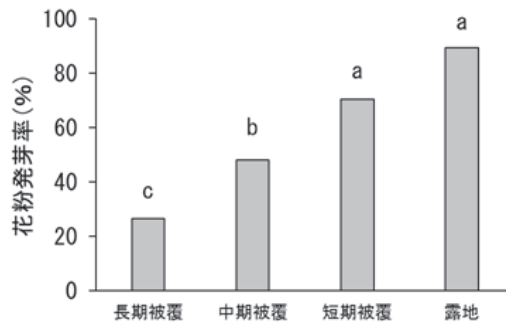


図6. ビニル被覆が「南高」花粉発芽率に及ぼす影響  
Tukeyの多重比較により、異なる符号に1%水準で有意差があることを示す (n=3)

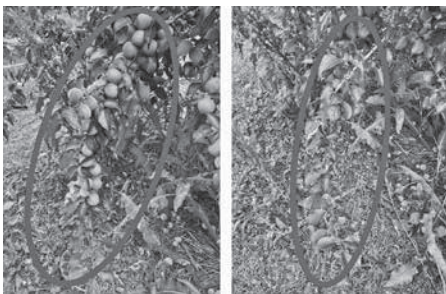


図7. 「NK14」の着果状況  
左) 露地区の着果状況、右) 被覆区の着果状況

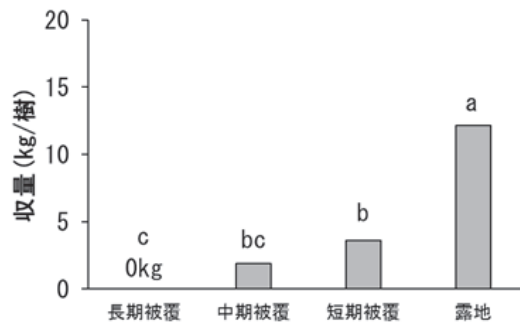


図8. ビニル被覆が「NK14」の収量に及ぼす影響  
Tukeyの多重比較により、異なる符号に1%水準で有意差があることを示す (n=3)

### 3. まとめ

ウメ樹体へのビニル被覆により開花前的高温条件を再現し、ウメの花器の発育および収量へ及ぼす影響を調査しました。

結果から、「南高」および「NK14」では開花前的高温により花器が充実不良となり、収量の減少が引き起こされることが示唆されました。なお、「NK14」の着果率は全ての被覆区で露地区よりも低下しました。これは不完全花の増加に加えて、花粉の発芽率低下により受粉が抑制されたためと考えられました。

# 地域の逸品!!

果物の風味を残した加工品づくりに取り組んでいます！

紹介者

紀の川市 指導農業士

稲垣 明 美

## 1. 商品の紹介

### ①いちじくぐらっせ

市場に出荷されないイチジクを使って加工しています。

ドライイチジクは以前から作っていたのですが、今回新たに、一つのお菓子として成立し、お客へのお茶うけになるような商品を目指しました。砂糖を煮詰める加減が難しいですが、イチジクのグラッセは珍しく、おもしろい商品になったと思います。今後、既存商品とのセット販売を計画しています。



いちじくぐらっせ

### ②さくさく柿せんべい

我が家でカキ栽培を始めたのをきっかけに開発しました。

カキの新しい食べ方提案として、道の駅などで購入しスナック感覚で食べてもらえるような商品を目指しました。また、既存商品の「さくさくみかん」に続く「さくさくシリーズ」を作りたいという思いもありました。

知り合いの販売所の方には、「ドライのカキはよく見かけるけれど、サクサクしたものは珍しいね」との意見をいただいています。

カキ以外に何も加えず作っているので、お子さんにも是非食べてもらいたい商品です。

なお、現在は新たに「さくさくりんご」を開発中です。



さくさく柿せんべい

## 2. お問い合わせ先等

丸駒（まるこま）農園 紀の川市桃山町元69-6

直売所 TEL/FAX：0736-66-2765

営業時間：10:00～16:00（土・日のみ）



さくさくみかん

# 地域の逸品!!

完熟栽培と有機肥料栽培にこだわった

## 「さつきはっさくジュース」

紹介者

広川町 指導農業士

伊藤 雅 秋

### 1. 商品の紹介

通常 12 月ごろに収穫するはっさくを暖かい気候を生かし樹上で越冬させ、4 月ごろまで樹上で完熟させたさつきはっさくを贅沢に使い、100%のストレートジュースに仕上げました。

ひとつひとつ皮をむき、皮の雑味が入らない状態で丸ごとしぼりました。

ほどよい酸味がきいてのどごしがおいしく、みかんジュースとは違ってさらっとのどを潤してくれます。

味が濃い小玉のもとだけを厳選して使うことでとても甘く濃厚なジュースに仕上がっています。

栽培方法にもこだわりがあります。自家製のもみから鶏糞堆肥を 30 年以上にわたって使い続けています。

今では肥料は化学肥料は使用せず、それのみで栽培できるようになりました。これにより味に深みが生まれました。

また、出来るだけ農薬を使わないように工夫をして、安心安全な生産物をお届けできるよう努力しています。

この商品は、道あかり（稲むらの火の館前）で販売しています。

また、ネットでも販売していますので、飲んでみたいと興味のある方は、是非、下記までご連絡ください。



### 2. お問い合わせ先等

伊藤農産

広川町井関 3 5 1 - 1

代表 伊藤 雅秋 (090-8382-3442)

# 地域の逸品!!

県内の食材を使用した

## 「わかやまあられ」

紹介者

田辺市 地域農業士

田中直美

### 1. 商品の紹介

田辺市龍神村産のしいたけや麦みそその他、うめなど県内産の食材を使った田辺市龍神村の「龍神は一と」さんの「わかやまあられ」を紹介させていただきます。

しいたけや麦みそ、南高梅、ぶどう山椒を使用した4種類があり、それぞれに「龍神みそ味」「しいたけ塩味」「梅ざら味」「山椒塩バター味」の商品名で個包装されています。

包装紙には、世界遺産・熊野古道中辺路のシンボリック的存在である田辺市中辺路町の牛馬童土像が描かれています。

蒸したもち米を機械のきねでついて作られている焼きあられで、サクッとした食感があり、歯触りがよく、大変美味しいあられです。

みなさんもぜひ、一度ご賞味ください。



わかやまあられ

#### <販売先>

- ・田辺市龍神村龍神の道の駅「田辺市ごまさんスカイタワー」
- ・宿泊施設「季楽里 龍神」
- ・田辺市中辺路町近露の道の駅「熊野古道中辺路」
- ・JR紀伊田辺駅前 市街地活性化施設「田辺エンプラス」
- ・南海和歌山市駅 複合施設「キーノ和歌山」の蔦屋書店

### 2. お問い合わせ先等

住所 〒645-0525 田辺市龍神村龍神165  
龍神は一との店

連絡先 0739-79-8068

# 農業士認定事業について

## REPORT

### 県農林水産業のリーダーを認定

和歌山県農林水産部経営支援課

令和4年2月14日、県農林水産業の中核的な担い手で、地域のリーダーとして活動している方々に対し、農業士（66名）、林業士（10名）、漁業士（5名）の認定証を交付しました。今回の認定により、県内の農業士は788名となりました。

併せて、農林漁業各分野で長年にわたり活躍された方々の功績に敬意を表し、23名の方（指導農業士20名、林業技能作業士1名、指導漁業士2名）に感謝状を贈呈しました。

例年、認定式を開催し、知事から認定証の交付及び感謝状を贈呈させていただいているところですが、令和3年度においても昨年度と同様、新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、各振興局から本人にお届けしました。

今回、農業士の認定を受けられた皆様、感謝状を受け取られた皆様は次のとおりです（敬称略）。

#### 指導農業士認定者 17名

氏名	市町村
増田 恵一郎	和歌山市
山片 智子	紀美野町
岩鶴 啓司	紀の川市
山名 司	紀の川市
高岡 宏幸	紀の川市
佐本 佳隆	紀の川市
名原 忠信	広川町
竹中 宏	広川町
湯川 喜広	広川町

氏名	市町村
宮井 広行	御坊市
稲見 好明	みなべ町
田中 直美	田辺市
田中 淳之	田辺市
小芝 鉄也	田辺市
那須 守	田辺市
池永 拓弥	田辺市
岡畑 忠典	田辺市



地域農業士認定者 27名

氏名	市町村
西岡 正喜	紀美野町
青柳 郁男	紀の川市
中西 伸弥	紀の川市
大植 恵子	紀の川市
辻本 勝也	橋本市
生地 弘季	橋本市
櫻井 聡	かつらぎ町
島津 寿明	有田市
寺嶋 和亮	有田市
佐原 貴也	有田市
金丸 真也	湯浅町
額田 伸一	広川町
大野 秀樹	広川町
玉置 泰伸	有田川町

氏名	市町村
栗本 幸太	有田川町
竹山 純平	御坊市
笠井 一暁	御坊市
齊藤 喜也	御坊市
中谷 明博	由良町
中川 敦子	印南町
面山 久美子	印南町
庄門 友美	印南町
岡田 好浩	みなべ町
藤川 雅史	みなべ町
中早 大輔	みなべ町
中山 雄史	田辺市
山本 拓自	古座川町

青年農業士認定者 22名

氏名	市町村
河鳶 宏弥	和歌山市
増田 祐太郎	和歌山市
泉 博之	和歌山市
増田 圭吾	和歌山市
橋詰 龍也	海南市
岩本 知也	海南市
山名 和之	橋本市
前谷 全孝	橋本市
岡野 成浩	かつらぎ町
井笹 大地	有田市
千川 智史	湯浅町

氏名	市町村
伊藤 貴章	広川町
竹中 知己	広川町
西岡 希真	広川町
小阪 英誉	御坊市
堀池 政志	印南町
井出 永	みなべ町
中井 貴章	みなべ町
鈴木 惣志郎	田辺市
那須 智彦	田辺市
坂本 智彦	田辺市
岡本 和也	上富田町

感謝状被贈呈者（指導農業士） 20名

氏名	市町村
河寫 保儀	和歌山市
吉本 久美	和歌山市
西 くみ子	紀美野町
曲里 雅人	紀美野町
飯田 勝	紀の川市
小坂 憲史郎	紀の川市
山本 佳司	紀の川市
檜尾 博之	紀の川市
野尻 久江	紀の川市
井上 公雄	橋本市

氏名	市町村
松本 弘夫	有田市
富上 将基	湯浅町
平野 栄樹	湯浅町
山崎 明	湯浅町
伊藤 雅秋	広川町
西岡 嗣郎	広川町
林 敬子	有田川町
上田 眞由美	日高町
橋坂 佐都美	田辺市
蕨野 準	田辺市

[クビアカツヤカミキリ対策] 早期発見、早期駆除が重要！ ～ 春から秋 ～

- 令和元年11月にかつらぎ町で県内ではじめて被害が確認されて以降、令和3年11月時点で、かつらぎ町、橋本市、紀の川市、岩出市、和歌山市のもも、すもも、うめで被害が拡大しています。
- 幼虫は冬になるまで樹の内部を食害します。生産者の方々は、常に園地をよく見回り、フラス（虫糞と木くずが混ざった物）を発見したら最寄りの振興局またはJAに連絡（発生地域を把握）するとともに、防除対策を徹底するようお願いします。



株元に溜まったフラス

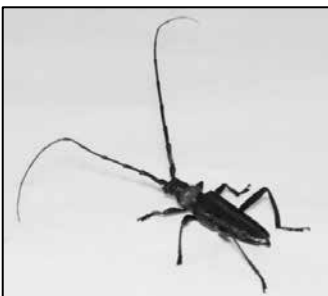


幼虫は樹体内を食害し、加害が酷い樹は、枯死に至ります。

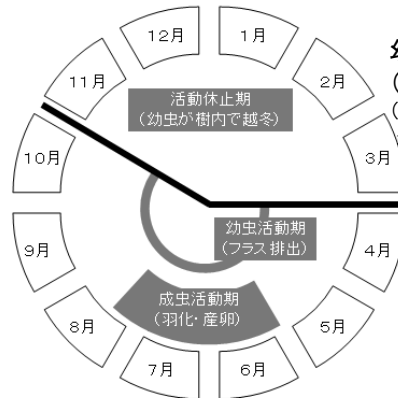


ミンチ状のフラス

じっくり、  
近寄って  
チェック



成虫は体長2～4.0cmで5月下旬～8月に発生します。光沢のある黒色で、前胸（クビ）は赤色です。繁殖力が強く、1頭あたり平均350個産卵し、1,000個以上の産卵事例もあります。



幼虫は11月頃まで活動！（フラスを探しましょう）  
（大阪府「クビアカツヤカミキリの生態と防除対策」を参考に作成）

防除対策

- 被害木の伐採・抜根は成虫脱出時期以外の9月～翌年4月行います。伐採木は放置せず、直ちに破砕あるいは焼却するなど、適切に処分します。被害木を園外へ持ち出す場合は、伐採木を防風ネット又はビニールシートで覆って飛散防止措置をした上で運搬するようにしてください。
- 伐採できない場合は、幼虫の掘り取り、捕殺をしてください。フラス排出場所の表皮をマイナスドライバー等ではずし、太めの針金等を用いて食入孔のフラスを掻き出し幼虫を刺殺します。
- スプレー型の農薬を注入する場合は、太めの針金等を食入孔に入れ、中のフラスを掻き出し、ノズルがフラスで詰まらないよう薬液を出しながら注入します。
- 掘り取り、捕殺、農薬注入した後は、被害樹を4mm目合いのネットを2重に巻き付け、羽化後の成虫が他の樹に拡散するのを防ぎます。

支援策（病害虫防除対策事業）

県では、被害樹の伐採、抜根、ネット被覆に対しての費用を支援しています。詳細は、最寄りの振興局にお問い合わせください。



## (参考) 農業士について

昭和 51 年から県知事が認定している制度。

地域農業の振興と農村の活性化にリーダー的役割を果たしている農業者に対し、付与される称号。「指導農業士 (65 歳まで)」「地域農業士 (65 歳まで)」「青年農業士 (40 歳まで)」の3つの区分がある。

令和 4 年 2 月現在の認定者数は以下の通り。

指導農業士	139 名 (うち女性	27 名)
地域農業士	528 名 (うち女性	49 名)
青年農業士	121 名 (うち女性	1 名)
合計	788 名 (うち女性	77 名)



表紙の人

湯浅町 指導農業士

**岡本 善樹**さん

湯浅町吉川で温州みかんを中心とするかんきつ経営を営む岡本さんは不知火の施設栽培も行っています。これまで、スプリンクラー防除施設や極早生種から普通種まで収穫労力を分散させるなど、楽に農作業ができる園地づくりに取り組んできています。

光センサー選果機に対応する高品質なみかんづくりには、適地適作が肝心と痛感している今日この頃とのことです。

## 和歌山の農業士 第 18 号

発行日：令和 4 年 3 月

編集：和歌山県

和歌山県農業士会連絡協議会

印刷：有限会社 阪口印刷所



# 和歌山の 農業士

和歌山県  
和歌山県農業士会連絡協議会

